



オーガニックコットン+天然染色

世界各地で染め継がれる 古来の天然染色方法を掘り起こす。

世界で最も古い植物染料のひとつとされるアカネ染料、同様に最も古いとされる動物染料のひとつであるラク、そしてナチュラルインディゴなどの天然染めを、求められる風合い、色にお応えできるように、オーガニックコットンを用いて多彩にラインナップしたファブリック・ブランドです。

化学染料を全く使用しない染料とオーガニックコットンの融合は、「畑から生まれた生地」とも言えるでしょう。

これらを、クロキが永年培ってきた技術を駆使し、ローブ染色、チーズ染色など、染める手法も製品が求める風合い、素材感を大切にクリエイティブします。



オーガニックコットンの現在、そして未来

—WGSN掲載記事[Organics in jeanswear]より抜粋—

オーガニックコットンを使用した生地への興味は、Tシャツ、アンダーウェア、ベビーウェアに始まり、現在ではアニメアイテムにも広まってきています。

これは、オーガニックコットンの持つ柔らかくしなやかな風合いへの評価に加え、地球規模の環境問題に対する社会意識が大きく影響しているとも考えられます。ユーザーはファッションブランドの商品の中から、より環境インパクトの低いものを選ぶようになっています。

このニーズに応えるためには、オーガニックコットンを育て、生産することを、短期的な見地で捕らえるのではなく、長期的に積み上げていくべき重要なこと、と考えることが必要とされます。

オーガニックコットンの恵は、例えばタンザニア、ザンビアなどではサイ、ゾウなどの希少生物を含む哺乳動物たちの健康を護り、その取り組みは生態系の保全にも繋がります。

2005年の段階で、オーガニックコットンの市場規模は、8億~10億ドルとされていますが、2010年までには15~20億ドル規模になるとも言われています。

現在の主要生産地は、トルコ、タンザニア、パキスタン、インド、ウガンダ、中国などの国々となっています。米国での生産量は低いものの、カリフォルニアでは高品質のオーガニックコットンが生産されており、そのムーブメントはカリフォルニアでの拡大に加え、テキサス、ニューメキシコ、ミズリーといった各地へも広まっており、現在進行形で生産量は増大しています。



ロハスのスローガンに代表される「持続する社会への想い」。デニム産業は、その想いに肯定的に貢献できる産業です。

オーガニックなデニムの中に秘められた自然な組成は、「ゆりかごからゆりかごまで」の生命の周期をサポートしていくのです。

クロキの「ネイチャー・スピリッツ」は、以上の考え方同様に、地球規模の環境問題も考えたニューファブリックとして、デビューします。

地球の恵
Nature Spirits



日本農林規格検査認定機関 アイシーエス日本株式会社
（有機農産物及び有機農産物加工食品・生産履歴公表 JAS）
224-0003 神奈川県横浜市都筑区茅ヶ崎東4-5-17

Letter of Confirmation

本確認書は、コットンプラント株式会社、オーガニック製造体系について、これを保持していることをアイシーエス日本株式会社により確認されている事を確認するものです。
アイシーエス日本株式会社は、農林水産省登録認定機関として JAS 認定を確保すると同時に、IFOAM 認定有機認証機関 ICS が運営する FVO 認定プログラムの日本での代行を行っています。

アイシーエス日本は、JAS 登録認定機関として農林水産省より認定を受けた以降は、FVO 認定取得者に対する生産体系の管理代行を継続提供しています。コットンプラント株式会社は、1999年に FVO 認定にて審査された会社の有機事業を引き継いだ会社であり、原料コットン及びその製造管理についてアイシーエス日本による実地検査を含む検証を受けています。対象の製品は、緑色です。

もしコットンプラントの有機管理状態について、異議が生じた場合、その内容については、アイシーエス日本に照会する事を認めます。この場合、異議の内容は、アイシーエス日本・認定部門 認定管理者である労働事業部長に送られるものとします。

アイシーエス日本株式会社
TEL 045-949-4620
FAX 045-949-4621
Email: ksj@pure-foods.co.jp

2007年7月25日

KUROKI
GLOBAL STANDARD